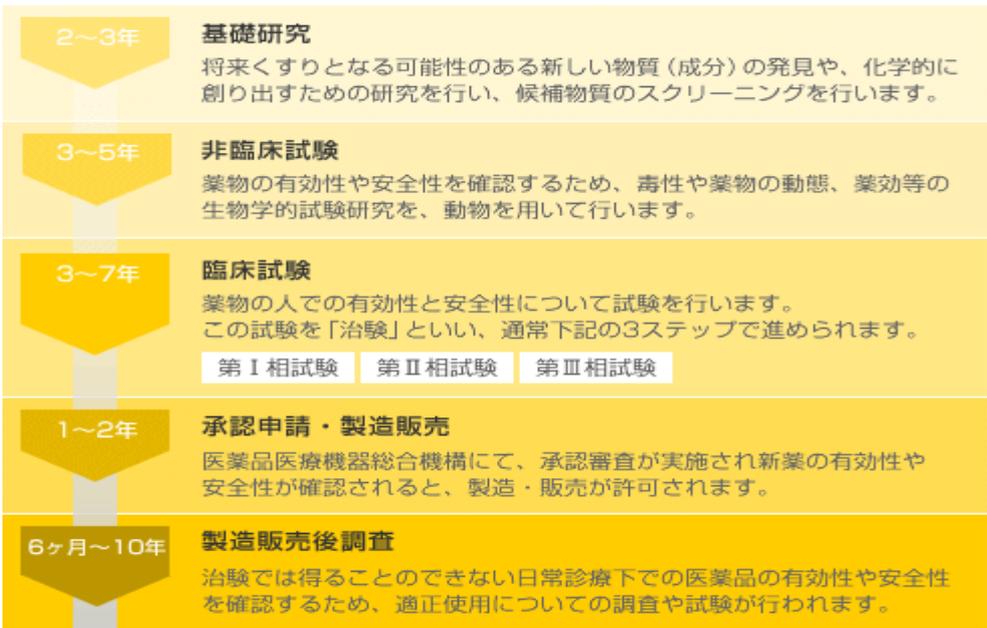


新薬開発（黒川）

経済活動の活性やオリンピックの開催のために COVID-19 のワクチンが各国で開発中です。治験中に重い後遺症が発生し、中断することもありましたが、確実に進んでいます。ところで、新治療薬の開発にはかなりの時間がかかるので、ワクチン開発に視線が注がれがちです。病気に罹患してしまった場合の治療薬はどのような過程を経て開発されるのでしょうか？現在わが国では、1年間におよそ40～50種類の新しい薬が誕生しています。新薬の開発は候補物質の探索（基礎研究）に始まり様々な研究や治験を行ないます。約10年以上もの長い開発期間と200～300億円もの費用がかかるといわれています。



新しいくすりの誕生
開発期間10年～18年、総費用200～300億円

人における試験の事を臨床試験といい、患者さんの人権や安全性の確保に最大限配慮しながら、第Ⅰ相～第Ⅲ相のステップを経て「くすりの候補」の有効性と安全性などを慎重に調べます。

- 第Ⅰ相試験**…健康な成人を対象に、その安全性を中心に薬剤がどのように吸収していくか確認する。
- 第Ⅱ相試験**…比較的少人数の患者さんに対していくつかの使用法（投与量、投与間隔、投与期間）を試し効き目と副作用の両方を調べたうえで最適と思われる使い方を決めていく。
- 第Ⅲ相試験**…多数の患者さんに薬剤を投与し実際の治療に近い形での効果と安全性を確認。

既存の薬に比べて効き目が上回るか、副作用が少ないか何らかの優れた特徴がなければなりません。新薬への期待も高まりますが、どうしても開発、認可には時間がかかります。こうした状況下、COVID-19 に対しては適応外でも、さまざまな薬を医師の裁量を基に流用することで対応してきました。そして現状で薬効と適応が認められている薬が2種類あります。抗ウイルス剤「レムデシビル」と、ステロイド系抗炎症薬「デキサメタゾン」です。さらに、新型インフルエンザ治療薬の「アビガン」は治験が3月から始まっており、一定の有効性が示されているようです。安全性の面でも新たな懸念は認めず、10月にも国内3例目の治療薬として承認申請するようです。さらに治療効果の高い新薬が開発されると安心ですね。

しかしワクチンや新薬が出来ようとも、感染症水際対策はしっかり継続し習慣化しなければいけません。

第13回 ゴミZERO セントラルパーク駅運動 11月21日

ZERO LITTER MATTER 次回は12/5土曜日15時~予定です



たばこポイ捨て本数
今回は250本くらい

少し減ったのかな・・・？
強風の影響で？



ホームセンターの裏は
食べ物のゴミは減っていたが
吸い殻、箱もそれなりに散見

注意喚起看板があるにも
かかわらず・・・。



ゴミを見つけると
子供たちが積極的に
取りに行ってくれる
元気あるね！！

今回はたくさんの子供たちが参加してくれました。
人数が多いと一人が拾うゴミが少なく助かりますね。

全体的にゴミは減った気がします。強風の影響もあるのかも
もしれません。半年前よりは確実に減っています。

年内までにゴミ「0」に少しでも近づけよう！！

Root for our home town!!

亀の井歯科 髪処 リンデン東葛

お口も髪も、そして街もキレイにしよう！

ゴミZERO セントラルパーク駅運動

ZERO LITTER MATTER

LINEの公式アカウント開設!

zerolittermatter

@495qjehp 友達検索



参加者大募集中です！！

